



8月11日、ナザレン教団下北沢教会で開催されました。

教会牧師の坂本 誠さんのあいさつは、「長崎の原爆投下のきのこ雲を、熊本のお母さんも見ていたことを聞いていた」、との話から始まりました。

また「塹壕の中のクリスマス」の話をされました。第一次世界大戦時、敵対するドイツ兵とイギリス兵の間で、讃美歌や聖歌が、互いに歌われ、一夜のあたたかい交流が生まれました。「撃て」と命じる者たちは、死にもしないし傷つきもしない。ライフルの両サイドにいるのは同じ人間なのだ、という話を映像を使いながら紹介されました。

今年のつどいのメインは、中沢啓二原作マンガ「はだしのゲン」の実写映画です。1976年山田典吾監督の作品。今は亡き三國連太郎・左幸子が若い父と母を、佐藤健太がゲン役を演じています。

戦争が人々の暮らしにいかにか重く影響したか、胸にせまってきます。戦争に反対し、「非国民」と呼ばれながら真実を伝えつづけようとする父。町内会でも、学校教育でも天皇陛下の名の下に行われるいじめと嫌がらせ。

空襲警報に振り回される日々。食糧不足・差別などのなかだが、ゲンたちは子供なりに正義感を持ちながら、元気だった。

原爆が落とされ、大好きな家族が目の前で生きながら焼かれ……。終戦の日はその9日後でした。

映画のあと、感想や戦中の話などを出し合いました。休憩時間には教会の好意で、冷たいお茶も用意されホッと一息。参加者36名でした。  
(代田1丁目・岩瀬 薫)



挨拶をするナザレン教団・下北沢教会の牧師・坂本 誠さん



鹿児島県出水市で長崎のきのこ雲を見た、と話す野間口至さん

## 終戦法記念日によせて アンケート より

### 1 映画「はだしのゲン」について

- ・涙なしに見る事ができませんでした。と、同時にダマされる国民の悲しさとダマす権力者の愚かさをあらためて思いました。賢い市民にならなくては！
- ・実写はどうか？と思ってましたが、良かった！！「そんたく」とか「空気を読む」などが言われている現代。まちがいまちがい、と言える人でありたい。難しいけれど。
- ・何回も涙ぐんでしまいました。戦争の恐ろしさを実感できました。私が小学校6年生の時に長崎で被爆した先生が担任で、長崎原爆での悲惨な状況をリアルに語られたのを、64年たった今、その情景をリアルに思い出しました。
- ・懐かしい俳優の顔ぶれ・・・。広島の実体験した中沢さんの作品を実写化。見る機会がなかったので今回、是非見たいと思ってました。子どもの目から見た戦争中の有り様なのでより率直にメッセージが伝わってきた。
- ・終戦時は3歳でしたので、恐怖などは覚えていません。食糧がなくて、ひもじい思いは忘れられません。戦争のため、父の仕事がダメになり、小学生の時から新聞配達や牛乳配達、中学が終わってからは大学まで夜間学生でした。  
この映画の良さは聞いていましたが、今回初めて見ました。

### 2 今日の集い全体について、ご感想・ご意見など

- ・牧師さんの「塹壕のクリスマス」のお話、野間口会長のお話が長崎資料館に入っているお話（きのこ雲はピンク色！）など貴重なお話を聞くことができました。
- ・ちょっと人が少なくてさびしかった。
- ・このようなテーマを描いた映画はなかなか見る機会がないので、良い企画だと思いました。また、お願いします。
- ・坂本先生は「塹壕のクリスマス」に関してレジメや動画を用意され熱心にお話されました。
- ・ポスターも張らず、参加者が心配されたが、思ったより多くの参加がありました。後半の参加者からの発言も雰囲気よかったです。

### 3 代田・九条の会の取り組みについて、など

- ・いつもニュースを送って頂きありがとうございます。



朝鮮半島で終戦を迎え、引揚げ体験を話す伊藤薫さん

#### 日本国憲法(抜粋)

- 第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。  
国の交戦権は、これを認めない。
- 第99条 天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～

## 「憲法『改正』に向き合う」—法学館憲法研究所編「日本国憲法の核心」を素材にして

講演者 浦部法穂（神戸大名誉教授）村井敏邦（一橋大名誉教授）白取祐司（神奈川大教授）  
白藤博行（専修大教授）木下智史（関西大教授）伊藤真（伊藤塾塾長）

7月16日に上記の講演会に参加し有意義な話を聞くことができました。全体で印象に残ったことをかいつまんで記したいと思います。憲法の所有者は私たち国民であり、主権者であることを強く自覚しなければならない。今私たちの主権は為政者に取られてしまっている。究極の判断のときのみしか主権を使えないと教育により思い込まされている。憲法を変えたいと主権者である私たちが思ったときに変えればよいのであるが、それを首相が大日本帝国憲法に戻すような改憲をして自分の実績としたいという強い思いで上から押し付けてきている。

九条については自衛隊を3項に明示することを言っているが、2項と合わないから削除ということになり更に1項も削除ということになりかねない。

また秘密保護法、安保関連法、共謀罪法そして辺野古を強行に推し進めてきたのはすべて米国の指示であるという。憲法の上に日米安保条約、日米行政協定がある以上事実上国民に主権はないのではないか。国民が真の主権を持つことが権力者にとって怖いことなのであるから国民主権の中に魂を入れていくことが大事だと。確かにそうは思うけど、その主権も事実上米国に握られている、その矛盾はどう考えればよいのだろうか。

講演の最後にワシントン DC にあるホロコースト・ミュージアムでみつけた「ファシズムの始まりの兆候」を紹介された。それは政治学者の Laurence W Britt 氏が後の世代のために自由・民主・平和主義を否定したファシズムが初期にどのような兆候を示したかを記述したもの。

- \* 強力で継続的なナショナリズム
- \* 団結の目的のための敵国を設定
- \* マスメディアのコントロール
- \* 宗教と政治の一体化
- \* 抑圧される労働者
- \* 刑罰強化への執着
- \* 詐欺的な選挙
- \* 人権の軽視
- \* 軍事優先
- \* 安全保障強化への異常な執着
- \* 保護される企業の力
- \* 知性や芸術の軽視
- \* 身びいきの蔓延

これらすべての項目が日本の現状に当てはまると思いませんか？ （代田5丁目・日暮 恵子）

### 群読構成劇「われらが日本国憲法」

曇り空の7月30日、群読構成劇「われらが日本国憲法」を観劇した。

代表の開会挨拶の後、加藤剛氏のメッセージを息子さんが代読「憲法は、戦争で亡くなった人たちの『夢の形見』、絶対に守りぬかなければなりません。戦争放棄や戦力の不保持を定めた9条は絶対に変えてはいけません」と。

続いて、しろたにまもる氏の腹話術。「笑うとナチュラルキラー細胞が活発になる。平和がいつまでも続きますように」とゴローちゃんとの絶妙なコンビで会場をわかせた。

本日のメインである群読構成劇「われらが日本国憲法」（作・構成：吉原公一郎、作曲：池辺晋一郎）。第2次世界大戦当時のスライドを映しながら上演。1925年治安維持法成立。なぜ戦争をしたのか？ 昨日まで勝った勝ったと言っていたのに無条件降伏とは？ 戦後、日本の礎となってきた日本国憲法がどのようにして作られたのか？ 日本人による40を超える憲法草案が用意され日本国憲法が誕生したことなどが語られた。松原混声合唱団も参加した憲法前文と九条の群読は迫力があつた。

ジェイムス・三木氏は、85歳を過ぎて思う事を多方面から話された。日朝戦争の時、日本人は7000万人で朝鮮人を含めて1億人、朝鮮人は日本人として戦った。現在のISは特攻隊、アラーの神は天皇（現人神）、日本の歴史は嘘が多い。新聞やデータで分かっているつもりになっているが、本当に分かっている。東京ドーム100ヶ分の広さのある脳・自分の頭で考えることが大切であるなど等約1時間に渡って話した。

世界最高水準の日本国憲法を、無傷で子孫に繋げていくことの大切さを痛感した時間であった。

（代田5丁目・小澤 清子）



## 安倍首相は「改憲」をあきらめてはいない

7月に行われた東京都議選、仙台市長選での自民党の敗北と、防衛省の「日報」隠し・「森友」「加計」問題での国会答弁の傲慢さ、などなど、安倍首相に対する支持率は7月以降、大幅に下落しました。増加した不支持の理由として「人柄が信用できない」などの項目が増えたことが指摘されています。言葉では口癖のように「丁寧に」といいますが、中身は全く伴っていないことが国民に分かってきてしまった、というところではないでしょうか。

一方、5月3日には、「9条に第3項を追加する」、そして「2020年に新しい憲法を施行する」と時期までも明確にして改憲の動きを「加速」させようとしてきました。6月には、自民党内での議論を加速させる意図も含めて、「今年の臨時国会で発議したい」とまで言い出していました。

8月3日に行われた内閣改造では、「人事面での刷新」を図るとされていましたが、あまり変わり映えのない顔ぶれになりました。幹部から「改憲は急ぐべきでない」といった断片的な発言もあるようですが、安倍首相・総裁の本心は変わっていない、と思います。自民党の高村正彦・副総裁は15日の時事通信インタビューで、「できれば、臨時国会に出したい」と述べています。いったん言い出したスケジュール放棄は簡単にはしないということだそうです。安倍首相も、衆参両院での三分の二以上の議席ということ念頭に置いて、同じ考えで進めているのだと思います。

5月以降、体制を強化して議論を重ねてきた自民党内の憲法改正推進本部は、8月末にまとめを行うということで進んでいるようです。9条に対しての改憲案も含まれてくると想定されます。9月中下旬には臨時国会が召集されるとの報道もあります。この秋は憲法9条をめぐる大きな動きが想定されます。しっかりと中身を学習して、憲法の改悪を阻止し、戦争する国づくりへの道を断ち切っていきたいと思いません。

(代田2丁目・伊東 宏)

### 集会等の紹介

9月19日(火) 18:30～

戦争法強行採決から2年、  
戦争法の廃止と安倍内閣退陣を  
求める9・19国会正門前行動

場所：国会議事堂正門前

主催：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

9月28日(木) 18:30～

私たちは戦争を許さない—安政法制の憲法違反を訴える

場所：日本教育会館

資料代：500円

主催：安政法制違憲訴訟の会 協賛：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

11月3日(金・文化の日) 13:30～

代田・九条の会創立9周年のつどい  
(計画中)

講演：「なぜ民主的憲法下のドイツにヒトラー独裁体制が生まれたのか？」

今、ワイマール民主制崩壊の要因を考える」

石田 勇治さん(東京大学大学院教授)

ほか

場所：都民教会(代田5丁目)

主催：代田・九条の会



お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。  
また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。